

はるとりがわ  
春採川水系河川整備基本方針

平成13年10月

北 海 道

## 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	1
(1) 流域、河川の概要 .....	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針 .....	2
2. 河川の整備の基本となるべき事項 .....	3
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項 .....	3
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項 .....	3
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅 に関する事項 .....	4
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な 流量に関する事項 .....	4
(参考図)	
春採川水系流域概要図 .....	5

## 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

### (1) 流域、河川の概要

春採川<sup>はるとりがわ</sup>は、その源を春採湖東部桜ヶ丘の標高50mの小高い丘に発し、そこから釧路市春採の市街地を西流して、一度春採湖に流入する。その後、春採湖下流で支川の沼尻川を合流しながら、釧路市千代ヶ浦で太平洋に注ぐ、流域面積5.3km<sup>2</sup>、流路延長4.6kmの小河川である。

河川の名は、一説によると、アイヌ語のハル・トゥルに由来し、「向こう側の・土地」の意と言われている。

春採川流域の気候は、夏は涼しく冬は比較的暖かい海洋性の気候で、流域内に位置する釧路市の年平均降水量は道内ではやや少なく約1,000mm、年平均気温は約6℃である。また、流域の地質は礫岩層を基盤として、沖積層や火山噴出物に広く覆われており、地形は段丘状を呈している。

流域の中心に位置する春採湖は2千年～3千年前に砂州の発達により海水がせき止められたことによってできた化石海水を抱く海跡湖で、周囲4.7km、面積0.4km<sup>2</sup>の台地に囲まれたすり鉢上の形状を呈している。春採川は春採湖からの唯一の流出河川で、流路延長0.54km、河床勾配約1/600で太平洋に注いでおり、過去の河川改修により、河口から130mが暗渠構造、その上流春採湖までは直線化され、河岸ぎりぎりまで家屋が建ち並び、河道は矢板による護岸が設置されている。また、春採湖を含み感潮域になっているため、潮位により常に水位が変動している河川である。

春採湖の湖畔では、ヤマハハコなどの高山植物やエゾノミズタデなどの北方系植物、カモガヤなどの帰化植物等が群落を形成し、また、湖岸全体に広がるアシ原が水質の浄化作用に良い成果をあげている。春採湖を囲む傾斜地には風衝林の役割を果たすミズナラやカラマツが繁り、その背後にダケカンバやナナカマド、ハリギリなどの大樹が繁茂している。また、河口から春採湖までの区間には植生の繁茂は見られない。

春採湖の湖畔では、ホシハジロやマガモ、アオサギなどの水鳥が多数確認されている。その中でもホシハジロは、1975年以来群をなして繁殖し、春採湖は日本唯一の繁殖地となっている。また、湖岸に広がる湿地にはチャマダラセセリ、ゴマシジミ、エゾアオイトトンボ、キタイトンボなどの昆虫類や湖内ではヒブナ、イバラトミヨ、ギンブナ、イトヨなどの魚類も確認されており、春採川流域は市街地における貴重な親水空間として広く親しまれ、地域住民に野鳥の観察や散策、ボート遊びなど広く利用されている。

流域内は都市化が進み、市街化区域が8割を占め、学校、博物館、アイスアリーナ等、文教・スポーツ施設が春採湖を取り巻くように位置しており、釧路市における重要な地域になっているとともに、春採湖は「ヒブナの生息地」として国の天然記念物に指定され、流域には春採台地堅穴群の国指定重要文化財があるなど文化学術面でも貴重な地域である。しかし、その一方で、流域の都市化に伴い水質の悪化が指摘され、過去には湖沼水質全国ワースト5に名を連ねたこともある湖である。

春採川の治水は、昭和35年の洪水を契機とし釧路市が昭和42年から46年に河口閉塞対策を実施したが、その後も昭和59年、昭和61年、平成5年と支川沼尻川合流点付近で家屋浸水被害が発生しているため、平成10年から春採川河口からの河川改修を行っている。また、平成10年から平成12年には下水道整備と連携した春採湖の水質浄化対策を実施した。

## (2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害発生状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮し、次のとおりとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、春採川流域の社会・経済的な重要度と道内の他河川との計画規模の整合を図り、概ね50年に1回の確率で発生する規模の洪水を安全に流下させることとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、関係機関や地域住民と連携を図りながら、流水の清潔の保持等に配慮し適切な措置を講じるなど、河川が適正に利用されるよう努めるものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、生息魚類や数多く飛来する水鳥、特に春採湖が日本唯一の繁殖地となっているホシハジロの生息に配慮し、湖畔のアシ原など現況の河川環境の保全に努めるものとする。また、ヒブナの生息に配慮しつつ、市街地における貴重な親水空間として地域住民に広く利用されている現状を踏まえ、関係機関や流域住民と一体となった水質の保全に取り組み、地域住民と河川との豊かなふれ合いの場の確保を図るものとする。

河川の維持管理については、災害の発生の防止や春採湖の水質を考慮するとともに、特に河口部に着目した河川管理施設の機能保持や、市街地の身近な親水空間である春採湖の良好な河川環境の保全など、地域住民や関係機関と連携を図りながら実施に努めるものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、概ね50年に1回程度の確率で発生する規模の洪水を考慮し、春採橋基準地点において、 $9\text{m}^3/\text{s}$ とする。

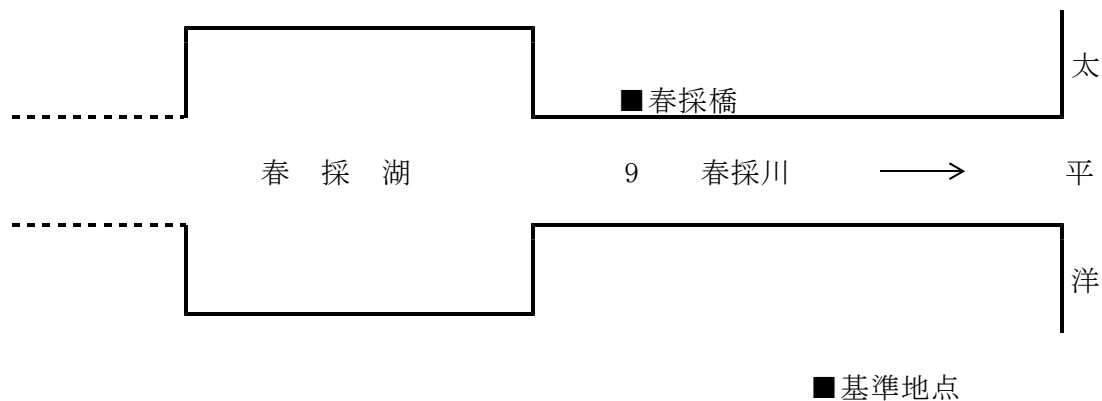
基本高水のピーク流量等一覧表

単位  $\text{m}^3/\text{s}$

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
春採川	春採橋	9	—	9

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

春採川における計画高水流量は、春採橋地点において $9\text{m}^3/\text{s}$ とする。



(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び概ねの川幅は次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

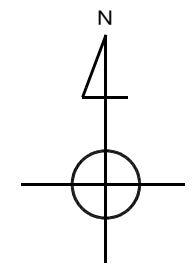
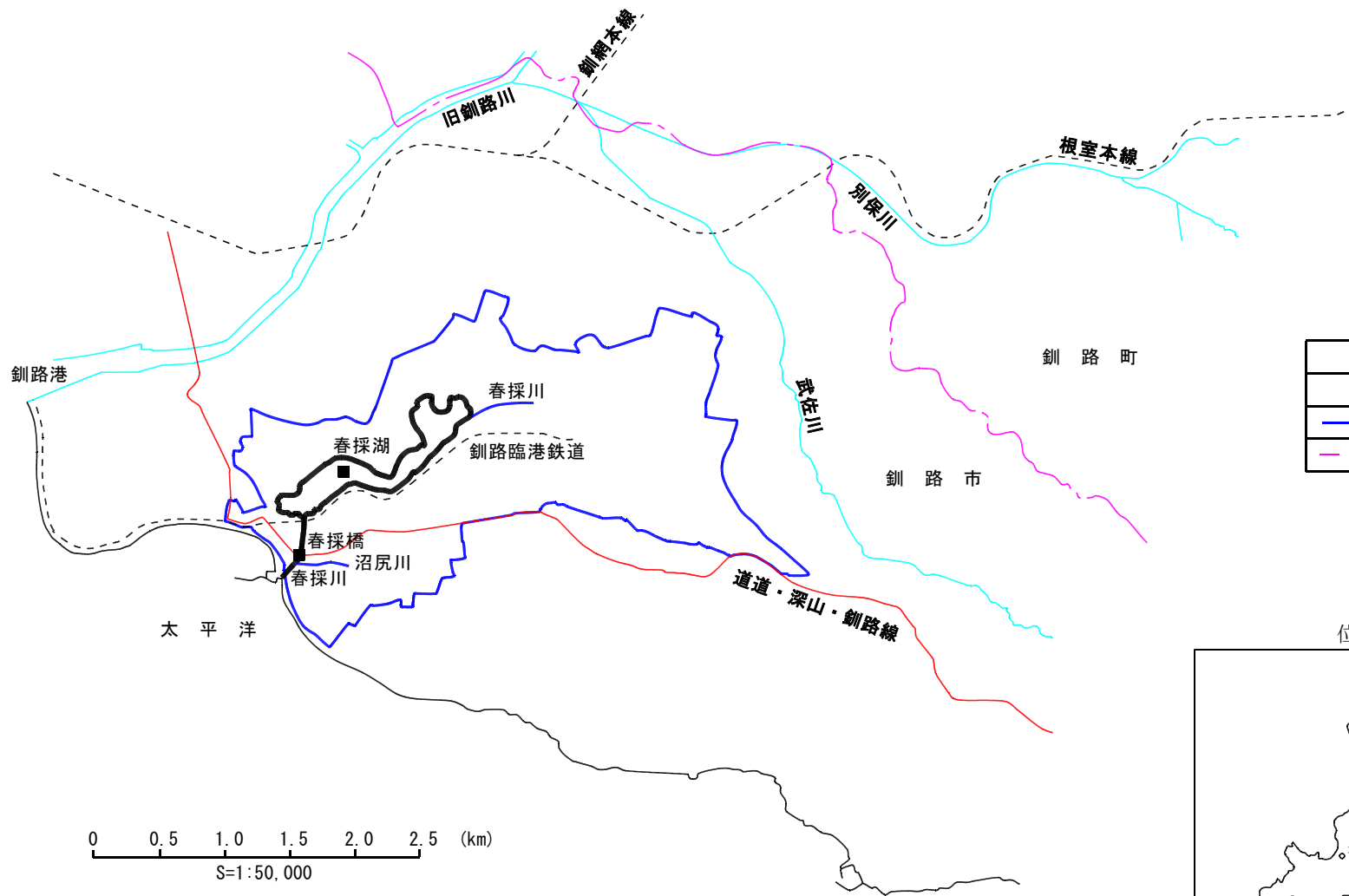
河川名	地点名	河口からの 距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
春採川	春採橋	0.26	+1.52	10
春採川	春採湖	0.59	+1.76	

(注) T.P. 東京湾中等潮位

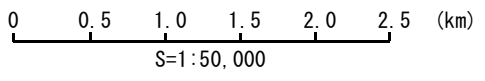
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

春採川の主要な部分を占める春採湖は、市街地における身近な親水空間として周辺住民に広く親しまれているとともに、貴重なホシハジロやヒブナが生息している河川である。

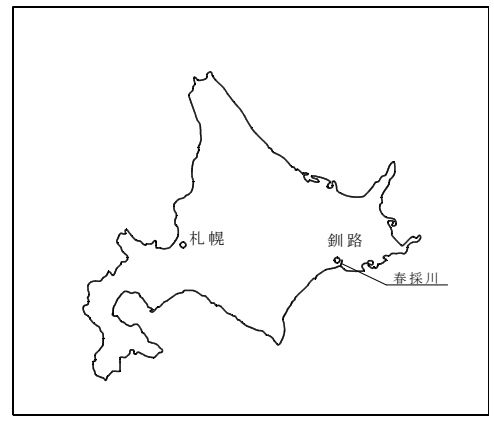
春採川の流水の正常な機能の維持については、水質や景観、動植物の保護等に関し引き続き調査、検討を行い、現況の河川環境の維持に努めるものとする。



基準地点	
■	基準地点
—	流域界
- - -	町村界



位置図



春採川水系流域概要図